板書例

4　第四段

◆「彼」と家の関係
「自分がこの家の付属物」
↓家が自分の持ち物と言えるかわからない
◎所有を根拠づけているのは金銭
↓家における自分の重要性もわからなくなる

◆「光を発さない光源体」
＝本来の重要な特徴を失っている
↓存在すること自体の根拠を失う

◆モリソバは何を表しているか
〈第一段〉ただ食べている
〈第二・三段〉登場しない
〈第四段〉
1　伸びて固まっている
「食べ残すわけにはいかない」
↓今の自分が唯一持っているもの
2　写真集に写り込むと不都合
↓理想的な住宅のイメージに合わない
◎日常生活の象徴

3　「彼」の声が出ない
←
◎日常そのものが「彼」に立ちはだかり、自己存在の問い直しを迫る。